

— 区における地域行政機能の拡大・強化 —

①「ハマちゃんバス」実験運行開始に向けた

西区役所の取り組み(西区)

渡辺 将  
— 西区 区政推進課企画調整係

①はじめに

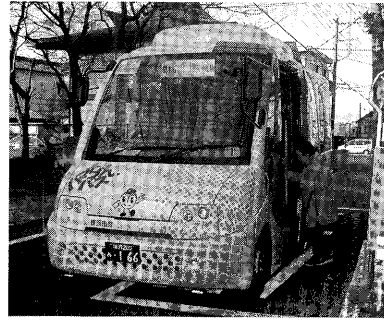
**平** 成15年12月15日朝、浜松町バス停より「ハマちゃんバス」の第1便が、開通を待ち望んでいた区民を乗せて出発した。この日から、最大20%の勾配がある水道道に、定員19人の小型ノンステップバスがゆっくりと進む光景が見られるようになった。

平成15年度予算から試行された「区による予算要求」で、都市計画局と西区役所が共同で進めてきたこの事業の、約1年間における西区役所の取り組みについて紹介していきたい。

**西**

区は、人口、面積とも18区の中で最も小さく、横浜駅やみなとみらい21地区を抱える都心区である。一方で、古くから市街地が形成されており、高齢化率が18・6%と市内でも高く(市平均15・3%、平成15年9月30日現在)、区内北部、南西部の丘陵地域では、幹線道路から少し離れた地域に、幅員が狭く勾配がきつい道路に沿って住宅が密集し、公共交通機関が整備されていない交通空白地域があった。このため、買い物や通院に出かけるのに急な坂を歩かざるを得ない高齢者が多く、日常の生活に不便を生じており、区民から「狭い道路を通れるミニバスを導入してほしい」、「交通利便性の地域格差を解消してほしい」などの意見、要望があった。西区役所ではこの問題を解決するため、循環バスの検討などを行ってきた。

このような中、都市計画局企画調査課(平成14年度まで企画局総合交通計画課)では、「中期政策プラン」の重点事業にも位置づけられている「おでかけサポートバス」の導入に向けた検討を行っていた。「おでかけサポートバス」とは、坂道がきつく、駅やバス停まで遠い地域に住む



②おでかけサポートバス事業と西区で実験運行を行った背景

高齢者などが昼間に買い物や通院などで外出することが便利になるように考えられた横浜型コミュニティバスである。将来の全市民的な導入に向け、高齢者等が毎日の生活で利用しやすいバスの運行計画、利用促進策、事業としての採算性等の検証を行う必要があるため、モデル地域で平成15年度から2年間の実験運行を目指していた。

西区役所は、実験運行を西区で行うべく、「西区民まつり」での小型ノンステップバスの展示、試走やアンケート調査を実施するなど準備を進めてきた。また、区要望(現地域ニーズ反映システム)の重点課題に挙げるとともに、事業の早期実現に向け、平成15年度予算から試行された「区による予算要求」で、都市計画局とともに実験運行経費の予算要求を行った。財政局との折衝を経て市長による最終的な査定の結果、実験運行経費を含めた1、514万円の予算が都市計画局に計上され、都市計画局と西区役所による実験運行にむけた準備を開始したのである。なお、広く区民に事業をPRするなど、運行事業を側面から支援していくために、「個性ある区づくり推進

費」で「おでかけサポートバス運行支援事業」100万円も併せて計上した。

③実験運行に向けた2つの会議の立ち上げ

**平**

成15年末の実験運行開始を目指し、地域の意見を反映した運行計画を策定するため、また、国や警察などの関係機関の調整を行うため、2つの会議を立ち上げた。「おでかけサポートバス実証実験検討委員会(以下、検討委員会)」と「おでかけサポートバス運行支援会議(以下、運行支援会議)」(表1)である。

関係機関で構成された「検討委員会」は、技術的な検討や実験運行開始後の運行状況の検証を行うことを目的に、平成15年3月に第1回の会議を開催した。ここで、実験運行を行うモデル地域を、①駅やバス停から2

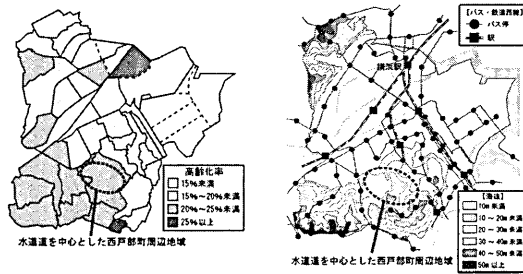
表-1 検討委員会と運行支援会議の役割

	検討委員会	運行支援会議
メンバー	・国土交通省、警察、地域代表、横浜市	・モデル地域の住民、商店街などの代表
目的	・運行計画について望ましい形を提案	・地域の情報を検討委員会に提案 ・バスの運行支援方法・乗車人員の確保の検討
検討内容	・基本的な考え方、ルート等技术的な検討 ・運行状況の検証	・利用しやすいバスについての提案 ・バス利用促進策の検討など
会議内容	第1回(3月) ・モデル地域の決定 第2回(4月) ・現地見学、ルート安全対策 第3回(6月) ・ルート、運賃について 第4回(11月) ・運行状況の検証について	第1回(5月) ・おでかけサポートバス、ルートについて 第2回(6月) ・ルート、バス停について 第3回(7月) ・検討状況、ルートについて 第4回(8月) ・バス事業者、車両、バス停について 第5回(9月) ・バス停名称について 第6回(10月) ・愛称について

00〜300m以上離れている、②人口が集積し、高齢者の割合が高い、③小型バスが通行可能な道路があり、約5km程度の路線で運行できる、の3つの条件を満たす「西区の水水道を中心とした西戸部町周辺地域」にすることが確認された(図1)。

これを受け、地域の情報を「検討委員会」に提供することや運行支援方法などの検討を行うため、モデル地域沿線の住民、商店街の代表からなる「運行支援会議」を立ち上げた。実験運行開始までの間、約1か月

図-1 西区の高齢化率とバス路線・地形図



【西区高齢化率 (H14.3.31時点)】

【西区バス路線・地形図】

とにルートやバスの愛称などについて議論し、貴重な意見が出された。また、バス停位置の調整や名称の決定などにも多大な協力を頂いた。その一方で、道路が狭く一方通行や右折禁止などの交通規制が多いなど、小型バスを使用してもルートが限ら

れたものになってしまったこと、運賃は100円という意見が多かったが、採算性の問題や周辺のバス路線との関係から、運行当初は他バス路線と同額としたことを十分に説明できなかったことなど、意見・要望を十分反映することができず、お叱りを受けることもあった。

この2つの会議において、それぞれ意見を頂きながら検討を重ね、7月にバスを運行する事業者を横浜市交通局に決定※①し、9月に横浜市交通局が国土交通省へ路線認可申請の提出を行うなど、運行開始に向けた準備を進めた。

#### ④事業目的や検討プロセスの広報

成15年2月に西区に「おでかけサポートバス」を導入することが新聞記事で報道されてから、区民の関心は高かったものの、高齢者等専用の無料福祉バスや全ての交通空白地域でバスが運行されると受け取る人も多かった。

このため、できるだけ多くの人に「おでかけサポートバス」を知ってもらうため、さらに、地域の声をきめ細やかに反映した運行計画にするために、検討経過について逐一情報提供を行っていくべきであると考えた。

そこで、表2のように、広報よこはま西区版やホームページ、報道機関、リーフレット「おでかけサポートバス通信」(第4号からは「ハマちゃんバス通信」)などを通して、

表-2 区民への情報提供の時期と内容

時期	内容	広報よこはま西区版	おでかけサポートバス通信	報道機関
2~5月	・おでかけサポートバスを西区で実施	5月号 (主要事業紹介)		朝日、神奈川、日経、毎日、読売新聞、時事通信(2月)
6~8月	・おでかけサポートバス事業の紹介 ・モデル地域を「水水道を中心とした西戸部町周辺」に決定 ・運行支援会議、検討委員会の紹介	8月号	第1号 (7月発行)	神奈川新聞(6月)
9~10月	・バス事業者の決定 ・ルートや運行間隔など概要の紹介 ・小型ノンステップバスの紹介 ・バス愛称の募集	10月号	第2号 (9月発行) 第3号 (10月発行)	神奈川、読売新聞 FMヨコハマ(10月)
12月	・運行開始日、ルートや時刻表の紹介 ・バス愛称の決定 ・運行記念式典の開催	12月号	第4号 (12月発行)	神奈川、産経、毎日読売新聞 TVKテレビ、横浜テレビ局(12月)

また9月には、西区内の施設に設置してある「なんでも提案箱」やホームページなどを活用し、バスの愛称公募を行った。96人146通の愛称応募の中から「運行支援会議」で5つの候補に絞り、11月に戸部公園で行われた「西区民まつり」の来場者による投票の結果、一番投票が多かった「ハマちゃんバス」に決定した。「西区民まつり」は天候に恵まれたこともあり、愛称投票コーナーと併せて展示された小型ノンステップバスや予定ルートにも関心が集まり、大きなPRを行うことができた。さらに、実験運行開始直前には、広報よこはま西区版や報道機関等による広報だけでなく、地域商店街の協力による歳末ちらしへの掲載なども行った。

#### ⑤実験運行開始と今後

のような2つの会議での議論を踏まえた運行内容の決定

や事業のPRなどを経て、平成15年12月15日(月)に実験運行を開始した。運行ルート、バス車両などは図2のとおりである。始発・終発など一部の便を除いて起点・終点のない循環運行や、全席優先席の実施、急坂を安心して乗れるよう座席の改良やシートベルトの設置など、他のコミュニティバスにはない工夫がされた路線となった。

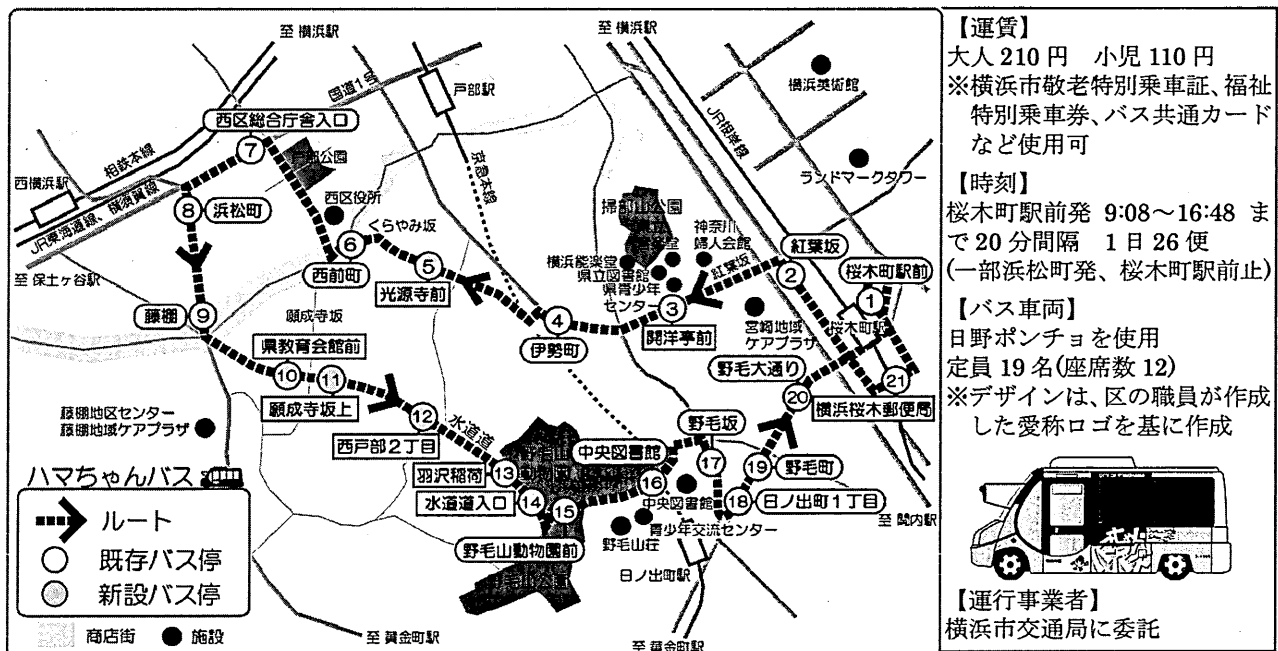
運行初日は、1日381人(1便あたり14・6人)の乗車人員であったが、1月の1日平均乗車人員は421人(1便あたり16・2人)で、500人以上乗車する日もあり、予算計上時に想定していた1日約300人を大きく超えている。また、西区役所で作成した、ルートや沿線施設、時刻表を載せた「利用のご案内」リーフレットは、「運行支援会議」の委員の協力のもとに沿線地域に全戸配布を行ったが、バス車内に置いた300枚が2日でなくなるなど盛況で、配布枚数が1万枚を突破し、リーフレットを持ってバスに乗る人も見られるようになった。運行開始2か月が過ぎ、徐々に地域の足として定着してきていると考えられるが、桜木町駅前を2度通る分かりづらさや、車内が狭いので電動車イス

利用者が移動しにくいなどの課題、要望もご指摘を受けている。

今後は、「検討委員会」と「運行支援会議」の2つの会議を引き続き開催しながら、乗車状況や利用者の声を踏まえた運行計画の見直しを検討していくとともに、バスと地域商店街のタイアップ企画の実施など運行支援策を行っていきたい。そして、高齢者などが気軽に外出できるように、街がよりにぎわうことを目指すことで、2年後の本格運行へ結びつくよう、さらに他地域への導入のモデルとなるような事業にしていきたい。

最後に、本事業は、「区による予算要求」における初めての事業であり、区役所が積極的に事業に関わることで、予算執行を含めた局と区の役割分担の調整など苦労することも多く、業務量も純増した。「区による予算要求」によって、区民ニーズを反映した事業を局と共同で行えるようになったことは、今後、区政を推進していくための重要な手段になるだろうと感じているが、事業は予算要求で終わるものでなく、始まりに過ぎないということも日々実感しているところである。

図-2 運行ルート、バス車両など



ハマちゃんバス~おでかけサポートバス~ホームページ  
<http://www.city.yokohama.jp/me/nishi/housin/bus/main.html>